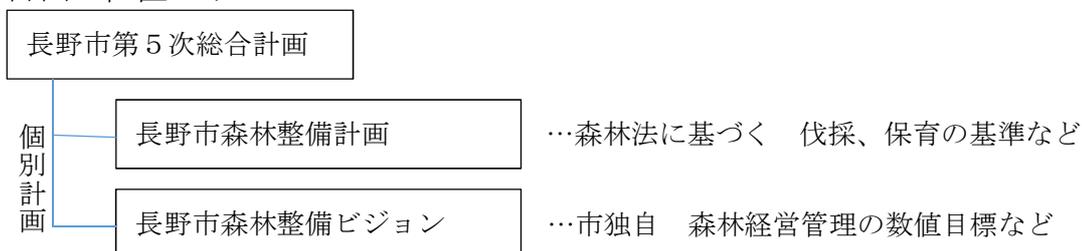


長野市森林整備ビジョン（仮）

1 計画概要

1) 計画の位置づけ



2) 計画期間 (R3.4～23.3) 20年間

1年～20年 森林の植え付け～枝打ちの初期保育段階～樹冠のうっ閉、

21年～40年 樹幹のうっ閉～標準伐期

41年～60年 標準伐期から現在の伐採適期、

60年～80年 伐採適期～長伐期

までの期間がそれぞれおおむね20年間

3) 計画の目的

長野市内の森林の木材生産機能、水土保全機能、保健文化を持続的かつ実現可能な範囲で最大限に発揮するための森林の経営管理の方針を定める。

2 計画の内容

1) 森林整備の基本的な考え方

- 多様な森林整備の方法を許容しつつ、持続的な整備方法に誘導するために、経営管理制度や補助事業を活用する。基本的には市町村森林整備計画に従った整備を行うが、生物多様性のための森林づくり、子どもが遊べる森林づくり、薪や原木を生産する低林施業や中林施業など、多様な主体による多様な森林整備や試験的な森林整備も同時に推進する。

2) 積極的に経営管理する森林面積の試算

- 森林所有者の意向や経営目標も考慮する必要があるため、地利、地形によるゾーニングは行わない。ただし、表1の経営方針ごとの森林の面積を把握するために、ゾーニング的な図面は作成する。
- ゾーニングで得られた地利・地形的に経営管理が可能な森林面積に、昨年度実施した意向調査の結果を参考に、実際に積極的な経営管理を行う森林面積を試算する。

3) 森林の経営管理に必要な資源の試算

- 図1の経営方針ごと森林面積から、必要な林業労働力、林業機械、補助金などの人的、資金的な資源を試算する。
- 不足する人材などの確保手段の検討

表1



4) 林道路網の解説による可能性の検討

- ・ 林道の開設・改良によって大きな効果が認められる箇所の機械的抽出。
- ・ 林道の洗堀被害を受けやすい場所に、経済的で効率的な路面排水を検討。

5) 森林の状況に応じた多様な林業事業体

森林組合、林業会社、素材生産業者、一人親方、ボランティア団体、自伐型林業副業型林業、複業型林業、週末林業

6) 多様な森林利用の創出

- ・ 森林が身近にある長野市の良さ
- ・ 森林が活用できることで長野市に来る、住む人口を増やす
- ・ 人が集まる森
- ・ 多様な利用には中心となる人材が最重要。人材を育成できる環境を作る
- ・ 可能性のある森林を活用する活動に、アンテナを張る

従来から存在する森林利用	比較的新しい森林利用
散策、登山、トレッキング、紅葉狩り、写真撮影、バードウォッチング、自然観察、ネイチャーゲーム、 狩猟 、山菜取り、摘み草、きのこ狩り、 キャンプ 、 ピクニック 、アスレチック、ログビルディング、山野草	森林セラピー、サバイバルゲーム、 ブッシュクラフト 、森カフェ、 グリーンウッドワーク 、 森林保育 、ツリークライミング、アドベンチャー施設、チェーンソーカービング、 トレイルランニング

※太字は、近年特に注目されているもの